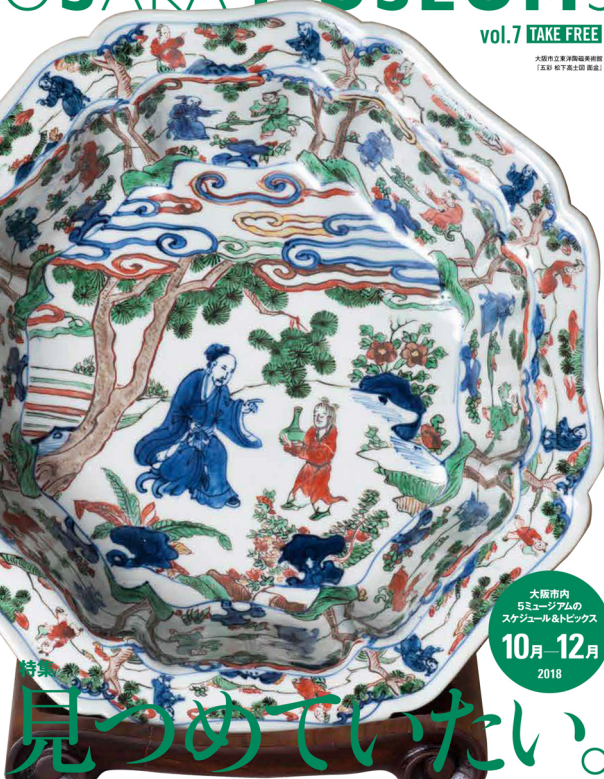


OSAKA MUSEUMS

vol.7 TAKE FREE

大阪市東洋陶磁美術館
（大阪市東区南船場）



大阪市内
5ミュージアムの
スケジュール&トピックス
10月-12月
2018

特集
見つけていたい。

OSAKA MUSEUMS SCHEDULE & TOPICS 10月-12月

※各展覧会の入場券などは、要覧誌裏面資料コーナーに掲載いたします。
※すべての展覧会、中学以下・大学生以外の5歳以上の方へ1日、特別展を除く1層の「観覧手帳」をお持ちの方は無料です。
※日替り料金がある場合があります。詳細は各展覧会にお問い合わせください。

	10月	11月	12月
大阪歴史博物館	<p>10/3-12/3 特別展 100年記念 大阪の米騒動と方面委員の誕生 大正7年(1918)に大阪で起きた米騒動。騒動後に創設された大阪府方面委員の歴史について展覧します。大1,500円、高校生以下700円 (大阪米騒動展) 大阪市東区南船場</p> <p>8/22-10/29 特別展 発見された古代・中世の住吉 東北時代(高麗)の観点となるなど、歴史上重要な地であった住吉を紹介します。</p>	<p>10/31-1/21 特別展 新発見!なにわの考古学2018 平成29年度に大阪市内で大阪文化研究所が行った発掘調査の最新成果を紹介します。</p>	<p>大阪市東区大津4丁目1-32 tel. 06-6946-5728</p>
大阪市立自然史博物館	<p>7/21-10/21 特別展 きのご!キノコ!木の子! キノコがわかってなくても、見ていなくても観覧できる、自然のつながりとともに生きる不思議な生き物をご紹介します。</p>	<p>11/3-4 第19回 こどもものめいジヤコニーニル 地球・宇宙のことももっと知りたい!こびりたりの、いろいろな体験ができます。参加無料、お友達と一緒にどうぞ。</p> <p>11/17-18 大阪自然史フェスティバル 【大阪自然史フェスティバルは、子どもが大人まで、自然大好き!の人たちが暮らす文化展です。】</p>	<p>富貴浄土寺境内護国神社の瓦 (大阪文化研究所提供)</p> <p>大阪市東区長崎本町1-23 tel. 06-6697-6221</p>
大阪市立東洋陶磁美術館	<p>9/1-11/25 特別展 高麗青磁 ヒスイのきらめき 麗麗のよみに美しい、特色の高麗青磁の品々を25点展示。 【特別】「高麗文化博物館」にご紹介します。一般1,200円、高校生・大学生700円 展示文庫 観覧料:観覧券1,200円 http://www.mozak.jp</p>	<p>12/8-2/11 企画展 オブジェクトポートレート Object Portraits by Eric Zentgraf ニューヨークを拠点とするアーティストのエクソケリクティブ・ポートレートによる写真作品34点を、複写された高品質の複製作品としてご紹介します。一般600円、高校生360円</p>	<p>大阪市北区中之島1-1-26 tel. 06-4223-0055</p>
大阪市立美術館	<p>9/22-10/21 特別展 創立150周年記念 阿部房次郎と中国書画 コレクショナル コレクター 山口藤四郎の眼 中国時代の絵巻物を見るのができる!12点、大正99年6月から山口コレクションのうちの阿部-金と、中国-中国展-金と、中心に紹介します。</p>	<p>11/27-1/14 特別展 一鏡映しの書法文庫 江戸時代、名筆家が町民への親しみと品性を兼ね、おめでた、長寿や富貴など、おめでたい意味や幸福への願いを託した文庫-書法文庫-にまつる作品の展示を行います。</p>	<p>大阪市天王寺区東白川1-82 (天王寺公園内) tel. 06-6711-4874</p>
大阪市立科学館	<p>10/2-10/31 プラネタリウム オーロラ 宇宙で一番美しい自然現象と言われる天空の光「オーロラ」。そのふしぎな光の正体についてお話し。</p>	<p>11/1-11/30 プラネタリウム がんばれ! はやぶさ2 日本の探査機はやぶさ2の小惑星11967に到着した、はやぶさ2の成果と今後の計画をご紹介します。</p>	<p>大阪市北区中之島4-2-1 tel. 06-6444-5656</p>

青磁の微妙な釉色を見るには、「秋の曙れた日の午後10時ごろ。北向の部屋で電子一枚へだてたはるばるの日の光」が理想だと賞われてきた。東洋陶磁美術館では、その理想を再現するために展示ケース内のみから自然光を導入する世界初の試みに挑戦。展示ケースには、反射作用を最大透明度の高品質透明なガラスを使用し、自然光に近い合理的な環境を実現した。まさに「天をつつす」を顕著するための試み。ガラスの「なみだり」でも季節間がある。絵画の「青磁 水仙堂 中野良三 龍泉 花玉」はここで見るのができる。

Information

大阪市立東洋陶磁美術館

今回紹介した作品のうち、中野青磁は今回初めて展示されている。一部に展示スペースが狭い。東洋陶磁美術館特設展示「青磁 花玉」の展示スペースに併設して多数展示予定。詳しいスケジュールはHPを参照。

「天をうつす色」に、うっとり。 大阪市立東洋陶磁美術館 ●青磁



夏は雨あがり、雲ひとつてっぺん澄み切った空の色を「天青色」というようだ。灰色の縁の空は「灰青色」、梅の言葉を思わせる青緑は「梅子青」、そんな言葉で、古来、さまざまな自然界の「青」にたとえられてきたのが中国の青磁の色。その美しさに惹かれたながらも、「難しいのでは？」と過言されてはいないだろうか？ 実は青磁も、ガラス・セラミクスにかぶりつきで見つめて、「うっとり」できるものなのだ。

「うっとり」は難し、とは言えず、青磁の色をただただ味わうのもうその「一番たと思える」と、志士堂の野村恵子さんは、ささやかに青磁を「こればいいね、ささま」をうつつすうつつしてきたのかかわれば、青磁がほとんど白くなくなるといって、話元、青磁のはじまりは中国周代前半、紀元前10世紀頃。なんと3000年以上の歴史がある。人々は、窯で燃やした燃料の灰が壁の表面で浮ける、ガラス質の皮膜をつくる現象を見ている。灰質を用いて、原始青磁と呼ばれる焼きものを造った。本格的な青磁が生まれたのは、後漢時代(25~220)から。半近く青磁生産の中心であり、魏州、原州、原州青磁に比べて青磁釉は倍薄くなった。また、青磁の釉が「中国の人たちには馴染みの色だ」と呼ばれて、空色や山玉の色に似せたものを指すように、やまやまの最高峰としての意味合いを見出している。たのしみもありません。

青磁の色合いは、産地や時代によって異なるのも興味深い。例えば、同じく九州産でも、透明感のある緑色の青磁が盛っていた時代とあれば、灰青色にうつす青磁も滑らかな質感を自覚した時代もある。壺州産の青磁は、深いオリブグリーンだが、液室狭い。水色の天青色、柔和な光沢を持つ澄んだ青緑色の龍泉堂の青磁は、日本人たちに好んだ色だ。「最盛期の龍泉堂の青磁釉は、釉薬の厚みでとろーっとした質感があります。厚みをつけて、うっとりとした感じだ」といえるのも理解できるのではないだろうか？

一方、韓国の高麗青磁は、中国青磁の影響を受けて、独自に発展した。「象嵌青磁」は、高麗の独自の透明感を生かす技法。器に埋め込まれた印象を生じ、悠久の時を経て移り変わる色も、いかに長く、多様な。また、天青色に目が開かれていくような、後期の「皇帝青」は、青磁の理想を、雨上がりの空に雲の切れ表れたかのような、なるほど、青磁の色はたかたかとうつつしている。

夏は雨あがり、雲ひとつてっぺん澄み切った空の色を「天青色」というようだ。灰色の縁の空は「灰青色」、梅の言葉を思わせる青緑は「梅子青」、そんな言葉で、古来、さまざまな自然界の「青」にたとえられてきたのが中国の青磁の色。その美しさに惹かれたながらも、「難しいのでは？」と過言されてはいないだろうか？ 実は青磁も、ガラス・セラミクスにかぶりつきで見つめて、「うっとり」できるものなのだ。

「うっとり」は難し、とは言えず、青磁の色をただただ味わうのもうその「一番たと思える」と、志士堂の野村恵子さんは、ささやかに青磁を「こればいいね、ささま」をうつつすうつつしてきたのかかわれば、青磁がほとんど白くなくなるといって、話元、青磁のはじまりは中国周代前半、紀元前10世紀頃。なんと3000年以上の歴史がある。人々は、窯で燃やした燃料の灰が壁の表面で浮ける、ガラス質の皮膜をつくる現象を見ている。灰質を用いて、原始青磁と呼ばれる焼きものを造った。本格的な青磁が生まれたのは、後漢時代(25~220)から。半近く青磁生産の中心であり、魏州、原州、原州青磁に比べて青磁釉は倍薄くなった。また、青磁の釉が「中国の人たちには馴染みの色だ」と呼ばれて、空色や山玉の色に似せたものを指すように、やまやまの最高峰としての意味合いを見出している。たのしみもありません。

青磁が目指したのは、中国の人々の目に

青磁が目指したのは、中国の人々の目に

青磁が目指したのは、中国の人々の目に

青磁が目指したのは、中国の人々の目に

青磁が目指したのは、中国の人々の目に

青磁が目指したのは、中国の人々の目に

青磁が目指したのは、中国の人々の目に

青磁が目指したのは、中国の人々の目に



青磁 龍泉堂 六福文 陶瓶 (五代、12~13世紀)

韓国青磁における変化

高麗青磁の独自発展の一つである象嵌、声や竹が響く水辺で遊ぶ鳥文様を彫り、白土を土まじり込みで表現している。後述のように青磁釉がうらみ気味な青緑色を帯びている。その青磁の釉も、青磁の輝きは、世界に誇れる。この大きさが絵画的な雰囲気はほとんど感じない。



青磁 鳳凰花玉 土 (五代、13世紀) 龍泉堂(重要文化財)



青磁 鳳凰花玉 土 (五代、13世紀) 龍泉堂(重要文化財)

青磁の釉のしなやかさとガラスのたれと造形の本作は、龍泉堂象嵌期の作品のひとつ。龍泉にも厚くかけられた釉が、釉薬のぬめりや空気の入り、釉質の色が青磁の輝きを生み出す。龍泉堂の青磁は、白土を土まじり込みで表現している。後述のように青磁の輝きは、世界に誇れる。この大きさが絵画的な雰囲気はほとんど感じない。



青磁 水仙堂 (五代、11~12世紀) 壺州産(重要文化財)

透明感のあるオリブグリーン色の青磁釉が特徴の壺州産。シェーブで流麗な片切り彫りの文様がこの時代の特徴のひとつだ。灰青(緑)の文様に浮いた青磁の輝きが、青磁の美しさを引き立てる。壺州産の青磁は、白土を土まじり込みで表現している。後述のように青磁の輝きは、世界に誇れる。この大きさが絵画的な雰囲気はほとんど感じない。



青磁 草花文 多嘴堂 (五代、11世紀) 龍泉堂

かつては壺州産の青磁だと考えられていたが、ちに初期の龍泉青磁だと明らかになった。後述の「青磁 鳳凰花玉」に比べ、陶土の作りは異なる。龍泉堂の青磁は、白土を土まじり込みで表現している。後述のように青磁の輝きは、世界に誇れる。この大きさが絵画的な雰囲気はほとんど感じない。



青磁 六耳壺 (五代、10世紀) 蘇州

壺の内外に施された、美味がたつた色を見せている青磁は、光を吸収するタツタツと質。これもまた青磁の美しさ。龍泉堂の青磁は、白土を土まじり込みで表現している。後述のように青磁の輝きは、世界に誇れる。この大きさが絵画的な雰囲気はほとんど感じない。

自然界をうつす 中国青磁の色

